



大里

石器とカルデラ噴火

黒島では珍しい石器の発見がある。一つは縄文時代後期(約四千年前)の石鉞(いしもり、左写真)、赤鼻(アカバナ)牧場(右写真)で発見された。魚を獲る石鉞としては、日本最南端の発見となる。なお、朝鮮半島、佐賀、長崎などの沿岸部でも、同様の鉞が出土している。

もう一つは丸ノミ形石斧(せきぶ)で、赤生木(アコギ)で採取された縄文時代草創期(約一万三千年前)のもの。三島村最古の人工物であることに加えて、国内でも非常に珍しい種類の石斧で、丸木舟を作る道具という学説がある。

また近年は、石器を発見した箇所の地質から、期せずして七千三百年前に鬼界カルデラで発生した大規模噴火(通称はアカホヤ噴火)後の様子がわかってきた。黒島には標高七〇〇〜八〇〇mより低い地域では、アカホヤ噴火の堆積物が見られない。これは噴火後にその高さの津波が黒島を襲い、噴火堆積物が流出した可能性を示す。

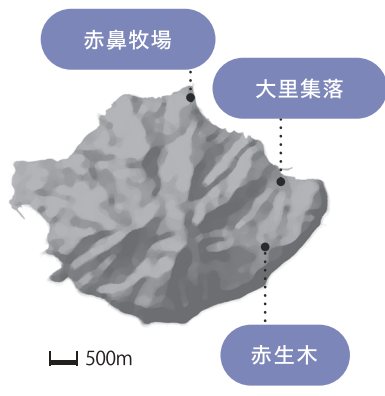
たとえば高地にある赤生木(標高三〇〇m)では、アカホヤ噴火より古い年代の石斧が出土した。一方、赤生木より低い位置の赤鼻牧場(標高約七〇〇m)では、表層の黒色土からアカホヤ噴火以降の年代を示す石鉞が出土した。本来ならその直下にあるはずのアカホヤ噴火噴出物の痕跡はまったくない。

さらに低い大里集落(標高四〇〇〜五〇〇m付近)でも、遺物の年代はすべてアカホヤ噴火後であった。こうした分布の状態から、標高の低い地域の古い遺物は、噴火後に発生した大津波で流出した可能性が高いことを示唆している。

思い出話

「石斧は、赤生木の牧場整備中に拾いました。全くの偶然でした。」

大里地区 六〇代 男性



2

日	月	火	水	木	金	土
30	31	1 ● 新月 旧 1/1	2 ● 旧 1/2	3 ● 旧 1/3	4 ● 旧 1/4	5 ● 旧 1/5
6 ● 旧 1/6	7 ● 旧 1/7	8 ● 上弦 旧 1/8	9 ● 旧 1/9	10 ● 旧 1/10	11 ● 建国記念の日 旧 1/11	12 ● 旧 1/12
13 ○ 旧 1/13	14 ○ 旧 1/14	15 ○ 旧 1/15	16 ○ 旧 1/16	17 ○ 満月 旧 1/17	18 ○ 旧 1/18	19 ○ 旧 1/19
20 ○ 旧 1/20	21 ○ 旧 1/21	22 ○ 旧 1/22	23 ● 天皇誕生日 旧 1/23	24 ● 下弦 旧 1/24	25 ● 旧 1/25	26 ● 旧 1/26
27 ● 旧 1/27	28 ● 旧 1/28	1 ● 旧 1/29	2 ● 旧 1/30	3 ● 旧 1/31	4 ● 旧 2/1	5 ● 旧 2/2